

学会記事

◎第1回理事会(昭.33.6.18)出席者:米田,内海新
旧会長,篠原,本間副会長,東,飯吉,井口,小野,
国分,高野,西嶋,野田,比田,藤村,丸安,渡辺の各
新旧理事。議事:1) 5月中の行事その他報告,2) 理
事担当を次のように決定した。

総務部長	高野 務	同次長	中安 米蔵
経理部長	藤村久四郎	〃	渡辺 寅雄
編集部長	国分 正胤	〃	井口 昌平
調査部長	比田 正	〃	西嶋 国造
研究連絡部長	小野竹之助	〃	野田 和郎

3) 関係公共団体との連絡担当理事を決定,4) 東北
支部および関西支部役員更迭について,5) 関西支部規
程および内規の各一部改正について,6) 委員会委員交
代について a. 会誌編集委員会 新任:(カッコ内は退
任),委員長 田原保二(糸川一郎),副委員長 井口昌
平(丸安隆和),委員 寺島重雄(久保 勉),田村浩一
(安藤 栄),大西清一(森 茂),三宅正夫(奥田教
朝),上東公民(小林元樹),奥村敏恵(八十島義之助),
海保久雄(栗栖義明),高橋克男(松本文彦),諫山 廉
(大野 宏),都 淳一(追加)。留任:深谷俊明(幹事),
栗津清蔵,伊東茂富,尾崎 寿,尾形武男,岡崎忠郎,
武部健一,南部三郎,三上 澄,南 俊次,尾崎 晃(北
海道),後藤幸正(東北),荒井利一郎(中部),小西一郎
(関西),網千寿夫(中四),山崎徳也(西部)。b. 論
文集編集委員会

(留任)委員長 友永和夫,幹事 徳平 淳

第1部会(留任)奥村敏恵,大地羊三,山口柏樹,樋口
芳朗,高田孝信

(新任)伊東茂富,松崎彬磨,田島二郎

(退任)山田順治,村上永一,安浪金蔵

第2部会(留任)佐藤清一,栗津清蔵,嶋 祐之,井島
武士,岡田篤也,松田暢夫,千秋信一

(新任)竹内俊雄,原口好郎,伊藤和幸

(退任)村 幸雄,白石直文

第3部会(留任)後藤正司,西亀達夫,比留間 豊,三
木五三郎

(新任)竹下春見,斎藤義治

(退任)福岡正己,石上立夫,市原松平

第4部会(留任)友永和夫,黒河内 浩,藤原 武,渡
部与四郎,村上幸雄

(新任)大島太市,細井昌晴

(退任)春日屋伸昌,及川 知

7) 土木工学ハンドブックの改訂について,8)「地域
計画に関する国際連合セミナー」のオブザーバーに本
学会代表として稲垣茂樹氏を推薦について,9) 夏季講

習会について,10) 定款改正特別委員会の構成につい
て,11) 毎日学術奨励金,階成会学術奨励金に対する研
究者推薦について,12) 日本科学技術情報センターの
職員を土木学会抄録委員会に傍聴方申入れについて,
13) 5月中の会員入退会承認について(別掲)。

◎各種委員会

1. 第1回会誌編集委員会(昭.33.6.20)出席者:
国分部長,田原,井口正副委員長,上東,武部(代平永),
田村,尾崎,三上(代米沢),大西,海保,寺島,南,三
宅,伊東,俊藤(東北)の各委員,糸川,丸安正副前委
員長,小林,栗栖(代小野寺),八十島,森の各前委員お
よび深谷幹事。協議事項:1) 投稿原稿審査報告,2)
依頼原稿の件,3) 新委員会の委員担当月および担当欄
について,4) 講座の件,5) 関西支部30周年特集号
について,6) 土木工学ハンドブック改訂について,7)
43巻8号登載原稿を次のとおり予定した。

成岡昌夫:直交異方性板の曲げ理論(追補),菅原 操:プレストレスト
コンクリートのクリープの現場測定,岩井重久:放射性廃棄物の処理およ
び安全管理について,堀内弘顕・秋山芳久:一級国道一号線(静岡一藤枝間)
夜間騒音測定およびその考察,楠 善雄:日本最初の水準原点について。

2. 第1回会誌抄録委員会(昭.33.6.4)出席者:樋
口委員長,岩間,小池,野口,丸山,矢島,新谷,伊能,
佐藤,津野の各委員。高橋幹事,左合元委員長,八十島
前委員長,徳平元幹事,山口前幹事,堀井,渡部,湯浅
の各前委員,協議事項:1) 43巻7号登載予定抄録の
決定,2) 7号登載文献目録の協議,3) その他。

3. 第1回会誌編集小委員会(昭.33.6.5)出席者:
糸川委員長,安藤(代田村),三上(代米沢),両委員。深
谷幹事。協議事項:43巻7号会誌編集(増大号)につ
いて最終的打合せを行なった(ページ数110ページ)。

4. 第69回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.33.
6.6)出席者:吉田委員長,友永委員。尾崎,白石,岡
田,堀内,深谷,小寺の各幹事。議事:5章1節フー
チング,2節井筒およびニューマチックケーソン7条ま
で審議。第70回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.
33.6.13)出席者:吉田委員長,国分,友永の各委員。
尾崎,白石,牧野,堀内,岡田,佐藤,川口,深谷,
小寺の各幹事。議事:5章8条,9条,10条,11条の審
議。

5. 海岸工学委員会幹事会(昭.33.6.13)出席者:本
間委員長,石綿,石原(代樫木),佐藤(代富永)の各
幹事。議事:1) 昭和32年度決算報告,2) 昭和33
年度予算,3) 第5回海岸工学講演会の計画および講演
募集について,4) その他。

6. 第20回耐震工学委員会(昭.33.6.19)出席者:
沼田委員長,岡本,星埜,田原,寺島,比田,畠山(代),
友永の各委員,久保幹事。協議事項:1) 第2回万国地
震工学会議の準備状況について,2) 第2回 WCEE 幹

事岡本委員外遊中は久保委員が代行すること、3) 御母衣ダムダイナマイト爆破による土木構造物の振動測定について、電源開発御母衣ダム建設所長にあらかじめ本委員会に連絡方を依頼して、爆破にともなう振動実験を実施することを申合わせた、4) 第2回地震工学研究発表会のプログラムを決定した(別掲)。

7. 第21回コンクリート示方書解説委員会(昭.33.6.20) 出席者: 吉田委員長, 国分, 川口, 丸安, 三浦, 山田, 後藤, 樋口, 伊東, 関の各委員。(学会側)米田会長, 篠原副会長, 比田, 西嶋両調査部理事。示方書解説原案ができ上つたので、これを報告のため特に会長, 副会長, 担当理事に出席を依頼した。議事: 1) 解説の最終訂正について, 2) 土木学会規準の改訂について, 3) 解説の体裁はビニールクロス表紙でA5版にすること, 4) コンクリート常置委員会を設置することにし, 委員の人選について協議した。

8. 土木振興対策委員会(昭.33.6.26) 平山委員長, 金森, 金子, 黒田, 高橋, 比企, 吉田, 千秋, 種谷の各委員。議事: 1) 土木設計管理小委員会でまとめた「土木設計および監理業務基準案」を逐条説明の結果出た修正意見について, 小委員会はこれを検討することとした, 2) 小委員会は解説および施工に関する基準をつくることとした, 3) 本委員会において今後とり上げる問題について各委員考慮すること。

9. 橋梁構造委員会(昭.33.6.30) 出席者: 福田委員長, 奥村, 田原, 富樫(代村上), 友永, 平井, 松村, 山田, 猪股, 国分の各委員。議事: 1) 第2回万国地震工学会議に橋梁部門より論文を提出するよう, 耐震工学委員会委員長より依頼があつたので委員が分担して Report を12月中旬に持ちよることとした, 2) きたる9月5日の「構造物の軽量化」に関する研究発表会に6題発表することとした。

◎通常総会(続報) 昭和33年5月24日早稲田大学小野記念講堂において開催。

- 1) 第1号議案 昭和32年度事業報告(東理事説明—別掲)

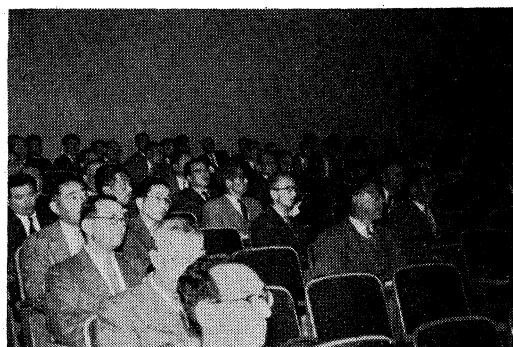
総会会場たる早大小野記念講堂正面玄関



議長席の内海会長



総会会場



内海会長より土木学会賞を受ける扇田彦一氏



- 2) 第2号議案 昭和32年度決算報告(飯吉理事説明—別掲)
- 3) 第3号議案 准員制廃止にともなう定款の一部改正可決
- 3) 第4号議案 名誉員に福留並喜, 橋本敬之, 牧野雅楽之丞, 田中 豊の4氏を推挙満場一致可決(別掲)
- 5) 昭和32年度土木賞授与:(別掲)
- 6) 昭和33年度新任役員の紹介:(別掲)
- 7) 内海会長記念講演:「わが国水力の将来と水力技術者の使命(要旨別掲)」

◎第13回年次学術講演会 昭.33.5.24,25の両日, 早稲田大学小野記念講堂で行われたが6月号に掲載につき省略する。

◎懇親午餐パーティー（6月号に掲載につき省略）

大隈会館における午餐会



◎見学会（昭.33.5.26 および 27 日）

A 班（KK日立製作所日立，多賀，国分両工場，海門橋，東海村原子力研究所）

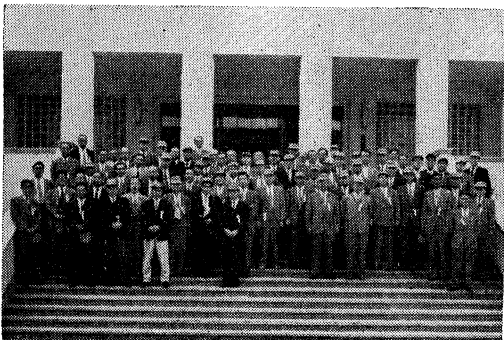
A 班の見学先は原子の火もえる近代科学の注目のまどである東海村原子力研究所と，重・軽電機にその実力を新界に誇る日立製作所であつた。

第1日：5月26日午後12時30分，日立駅の受付にはすでに茨城県の小村土木部長以下課長，関係係長の方々が揃いでわれわれを待つて下さる。ここで見学先の参考資料と2日にわたる自動車旅行の乗車指定票をもらつて車に乗りこむ。

午後2時日立製作所日立工場に着く。ここは日立製作所の心臓部であり，また同社の発祥の地である。小森谷副工場長より全般にわたる説明があつた。これを要約すると次のとおりである。明治41年当時久原鋳業所日立鉦山工作課長であつた小平前社長は，機械工業の国産化を念願し，大なる抱負と固い決心のもとに電気機械修理工場を設けたのが日立工場の基礎となり，現在は電力，車両，鉦山，造船，製紙，土建，農業，化学工業，鉄鋼，原子力など各種産業に必要な諸種の機械を製作しており，本邦最大の重電機工場である。製品には世界的記録に達するものも多々あり，14000kW，100000Aのゲルマニウム整流器等も世界的のものの一例であるとのこと。

説明を終つて一同で各工場を見学する。今まで発電所

日立工場小平記念館前にて記念撮影



日立工場小平記念館前にて



で見てきたタービンや発電機が目の前で作られゆく。丸ビルより高い工場の中には350tの容量をもつ移動クレーンが縦横に走つて，重量感を誇示するかのごとくである。一同小平記念館前で記念撮影をし，再び車で多賀工場に寄り家庭電器機具の製造を見て国分工場に向う。ここはモーターやブレーカー，エレベータ類の製作をしていた。4時半に見学を終り車で水戸市まで戻り，大洗ホテルに到着，半日の汗と埃を洗い落して，太平洋の波を背にした大広間で懇親会が開かれた。

大洗海岸

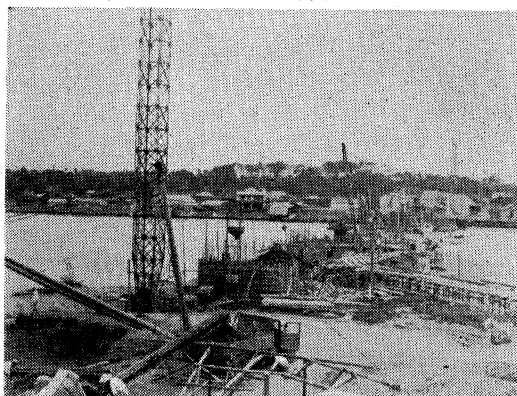


小村土木部長の歓迎の辞と見学会の代表の謝辞に始まり磯節の合唱やら，会員のお国自慢が続いて有意義にして和やかな懇親会は10時ようやく幕をとち第1日の予定を終つた。

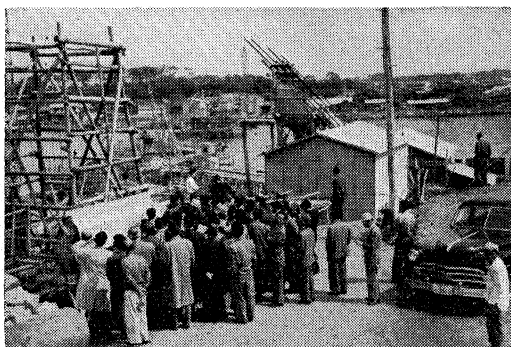
第2日：5月27日朝8時半車にて那珂湊の海門橋を見る。道路公団海門橋工事事務所の高橋所長の説明にて施工中の下部工事および上部工事計画を聞く。全長407.8m（うち陸橋105.0m），本橋91.0mのランガー桁，側径間38.8m，鋼桁4連，28.3m，23.0m各1連，陸橋17m6連がその全貌で，下部は本橋橋脚6基（ケーソン工），陸橋橋脚6基よりなつている。総事業費3億5000万円，着工昭和32年9月，竣工予定昭和34年5月である。

海門橋より東海村の原子力研究所に車を駆る。東海村

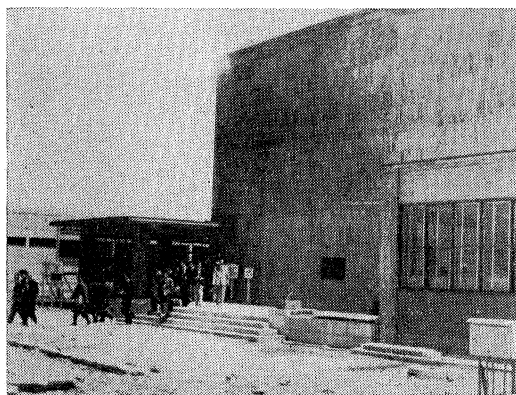
工事中の海門橋



海門橋における見学者

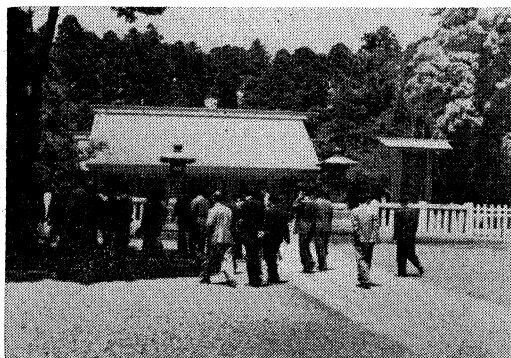


JRR-1 実験炉



は水戸市の東北約 15 km の太平洋に面する松林の中に位置し、その面積約 100 万坪を有する。現在敷地内は道路舗装工事、各種厚生施設の建設工事の真最中であり、原子炉計画としてはウォーター・ボイラー型と呼ばれる JRR-1 (Japan Reserch Reactor) はすでに完成して実験の段階に入っており、目下さらに濃縮ウラン型 JRR-2 (CP-5 型) が工事中である。われわれには核反応の説明は専門外でちよつとわかりにくい、炉の構造に関する施設については種々の質疑応答が活潑に行われ、これらを通じて原子力を身近かに感じ得たことは大きな収穫であつたと思う。

水戸偕楽園公園内常盤神社にて



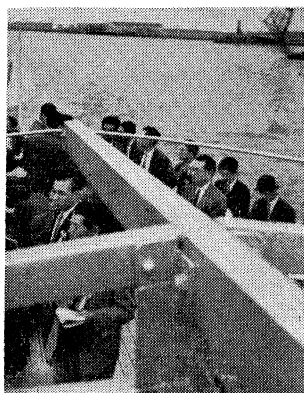
正午再び水戸市内の偕楽園に到り水戸市長の歓迎の辞を受け、園内で昼食ののち解散した。参加人員 68 名で天候に恵まれ愉快的見学旅行を終えることができたことについては、県土木部長、関係課長課員、KK 日立製作所日立、多賀、国分各工場、日本道路公団、原子力研究所、後藤日立セメント常務取締役等、関係各位のご配慮を深く感謝する次第である。

B 班 (京浜各港、東電新東京火力発電所、東京瓦斯豊洲工場)

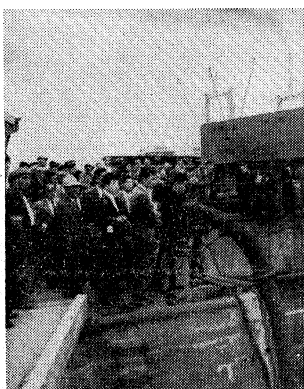
5 月 26 日 9 時参加会員 62 名は竹芝棧橋東海汽船発着所 2 階ホールに集合、9 時 30 分しのめ丸(都港湾局)に乗船、棧橋を後にして左に浜離宮の緑の芝生を見ながら隅田川を勝鬨橋まで遡行した。

勝鬨橋から船は再び隅田川を下り東京港入り日の出棧橋、芝浦岸壁、晴海埠頭等々港内の諸施設、諸工事につき都港湾局田村、和田両氏の説明を受けながら豊洲埠頭に向う。10 時 50 分船は豊洲石炭埠頭に到着、ただちに第二港建配送のバス 2 台に分乗、東京電力新東京火力発電所へと急ぐ。発電所で張間発電所次長から、同所の機構、施設等の説明を受け構内のご案内をいただき発電所を後にした。一行は 12 時東京瓦斯豊洲工場に到着し講堂で昼食ののち、同工

山下丸船上にて港内の説明を受ける会員



横浜ケーソンドックの説明を受ける会員



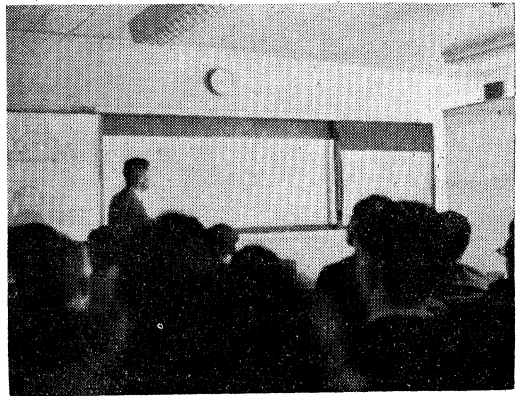
場の建設課程を映画により観覧，バスで構内をまわり道々係の方から説明を受け 13 時 30 分辞去，川崎へとバスは走った。14 時川崎市宮埠頭に到着，諸資料の配布を受け加納第二港建京浜工事々務所長，滝沢川崎市港湾部建設課長，石黒第二港建京浜港工事々務所工務課長の諸氏よりそれぞれ所管の建設工事，計画について説明を受け山下丸（第二港建）に乗船した。船上にて上記 3 氏の説明を拝聴しつつ船は川崎，横浜を一巡，途中横浜ケーソンドックの見学のため上陸し，17 時山下棧橋に上陸，埠頭の説明を受けたところで本見学会の全行程を完了，謝辞を述べて散会，あれほど暑かつた陽差しは何時か夕暮のヴェールの彼方に去り，やや肌寒い風が棧橋の上を吹いていた。参加会員は行程がきつかつたせいかやや疲労をうかべてはいたが，それぞれ満足のうちに第二港建のバスで桜木町駅まで送っていただき三々五々帰路についた。本見学会の実施に関し，運輸省港湾局建設課，東京都港湾局計画課，東京瓦斯 K K，東京電力 K K，第二港湾建設局京浜港工事々務所，川崎市港湾部建設課の関係各位の御丁寧なるご配慮に対し，深甚より感謝の意を表する次第である。なお，本記録は紙面の関係で単に見学行程をたどつたにすぎないが，当日見学先各所で配布された諸資料は学会に保管してあるから希望の方は御来会願いたいことを付記する。

C 班（東京地下鉄 4 号線工事，日本麦酒目黒工場）

5 月 26 日午前 9 時土木学会々館に集合，ただちに会議室において帝都高速度交通営団清水工事課長，西嶋工事々務所長より地下鉄工事の概況について説明を受け活潑な質疑応答があつた。終つて 10 時バス 2 台に分乗し目的地たる国会議事堂地下のルーフシールド工法施工中の現場へ向う。途中車上より四谷駅立体交叉，弁慶橋付近の工事状況を清水課長より説明を伺つた。現場では場所の関係上 2 班に分れて熱心な見学が行われた。

本区間は地質の大部分が細砂で，かつ水位は約 5.6 m，地形の関係上掘削深度で最大 23 m にもおよび開削工法は採用できず，重量 108.5 t，幅員 11.80 m，高さ 5.80 m（外側寸法）のルーフシールドを製作し施工に当つたもので，延長 231 m のうち 150 m を掘削完了している。熱心な会員はシールドの上に乗って登り泥にまみれて詳細な見学を終つた。西銀座～新宿間 6.9 km におよぶ昼夜兼行の難工事土木工事は現在その 50% 以上を完了し，34 年春には全線開通の予定である。見学後一行は土木学会々館に戻り昼食ののち，午後 12 時 30 分より営団提供の地下鉄工事，および国鉄東京工務局提供による国電・地下鉄立体交叉の映画を観賞し，一同改めて感銘を深くした次第である。1 時 30 分より再びバスに乗る国電恵比寿駅に近き日本麦酒目黒工場の見学に向つた。争議中のため全部の工程は視察できなかつたが，映画および係員の案内によりオートメーション化されたビ

清水工事課長の説明



現場入口前にて



見学を終りビールの歓待に一息つく一同



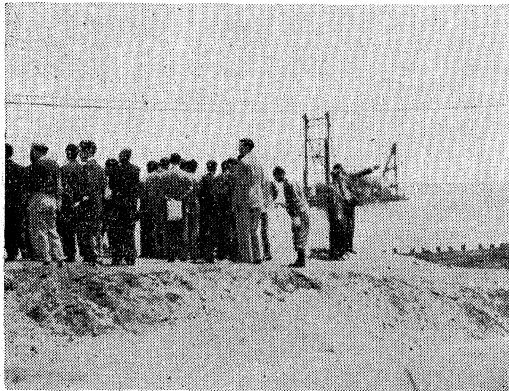
ール製造の過程を興味ぶかく見学し，終つて同工場の接待による新鮮な生ビールに乾いたのどをうるほし，午後 4 時有意義な 1 日の行程を終つた。参加人員 93 名。終りにこのぞみ本見学会にご協力賜つた帝都高速度交通営団ならびに日本麦酒目黒工場の関係各位に対し厚く謝意を表す。

D 班（川崎港埋立工事現場および味の素工場，日産自動車 K K 工場）

5 月 26 日晴，午前 9 時 30 分国電川崎駅前集合，参

加者 56 名を得て日産自動車 K K 提供のバス 2 台に乗り込み、ただちに見学コースに入り、まづ川崎港埋立地に至る。ここは多摩川デルタ地帯として好適な埋立条件に恵まれており、この条件を十分に発揮せしめるため川崎港の港湾整備計画に従い、神奈川県企業庁が第 1～第 4 区に分割ししゆんせつおよび埋立中である。工事施工期間は昭和 31 年より 6 カ年で埋立て、完成坪数は 120 万 4 000 坪であるなど川崎工業地帯建設事務所長の臨海工業地帯造成事業計画等の説明があつた。この日はめづらしく風もなく砂漠のような埋立地を一同は十分に視察することができ、次の味の素工場へと向つた。同工場長の説明で今から 50 年前東大教授池田菊苗博士によつて味の素が発明され、その主成分はグルタミン酸で蛋白質に多く含まれているアミノ酸の一種であり、現在はおもに米国産の大豆を原料とし化学的製造工程を経て造られているなどを聞き工場内を詳細に見学、同社講堂で昼食、茶菓の接待を受けつつ近藤神奈川県土木部長の挨拶があり、また「箱根早雲山地にり災害」その他神奈川県の諸事業の映画を見せていただいた。そしてこの日最後の見学

川崎市埋立工場を視察する一行



場所日産自動車工場に移る。内部に歩を進めれば 1 人の工員の受持つ監視装置で完全にオートメーション化されている。総合機械加工、組立作業を見学し順々に製作される各種の自動車を目のあたりに眺め、わが国工業の大きな飛躍を感じとり小憩ののち会員を代表し本見学の謝意を岡部二郎氏が述べ、4 時 30 分バスで横浜駅まで送られ散会した。最後に本見学会実施にあたり、神奈川県土木部、企業庁の関係各位のご尽力、味の素川崎工場、日産自動車 K K の御厚意に深く謝意を表する次第である。

支部だより

関西支部

◎商議員 (昭和 33.34 年度) 明石外世樹、上原 正、片岡 武、加藤乾二、北村誠一、倉田宗章、合田 健、宗宮義正、田中常三、中村三郎、西田俊策、福山真三郎、藤沢 仁、室田 明、吉田進一、内田隆滋の諸氏。

◎幹事長および幹事 (昭和 33 年度) 幹事長：近藤三三郎、幹事：石田 聖、伊藤富雄、大島哲雄、成松清雄、別所多喜次、松尾新一郎、八木健二の諸氏。

関係公共団体だより

◎応力連合講演会第 2 回運営委員会 (昭.33.6.2) 土木学会々議室において、一般講演、特別講演、懇親会等について協議。同第 3 回運営委員会 (昭.33.6.11) 土木学会々議室において、一般講演プログラム編成、特別講演の次第、司会者の予定等について協議した。

◎日本学術会議原子力特別委員会・日本放射性同位元素協会共催「放射性同位元素の廃棄処理」に関するシンポジウムが 6 月 23 日に日本学術会議講堂において開催された。

◎日本管工事工業協会 会長理事 坂井源太郎氏

会員現在数 (昭.33.6.30 現在)

名誉員	賛助員	特 1 級 A	B	C	特 2 級	特 3 級	正 員	准 員	学生員	合計	増加
26	30	16	12	71	115	102	8 762	4 384	980	14 498	126

昭和 33 年 6 月分入退会報告 (昭.33.6.1~6.30)

1. 入 会	146 名 (正 38, 准 34, 学 72, 特 1 C 1, 特 2 1)
2. 退 会	26 名 (正 11, 准 13, 学 2)
3. 転 格	76 名 (学より准 29, 准より正 47)

正 員	福田 水 門 君	三菱鉱業高島鉱業所	昭和 33 年 6 月 3 日逝去	享年 47 才
正 員	雨 宮 健 二 君	国鉄岐阜工事局	昭和 33 年 6 月 9 日逝去	享年 40 才
正 員	近 藤 利 八 君	中野区千代田町 35	昭和 33 年 6 月 20 日逝去	享年 53 才

昭和 33 年 7 月 10 日印刷

印刷者 大沼正吉

編集兼発行者 中川一美

定 価 100 円

昭和 33 年 7 月 15 日発行

印刷所 株式会社 技報堂

発行所 社団法人 土木学会

振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 43 巻 第 7 号

東京都港区赤坂溜池 5 番地

東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

電話 (35) 5130・5138・5139 番